

国連NGO横浜国際人権センター・うずしおランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾ニュース

人の世に熱あれ 人間に光あれ⑰ ～夢を実現した生徒の語りと生活ノート～

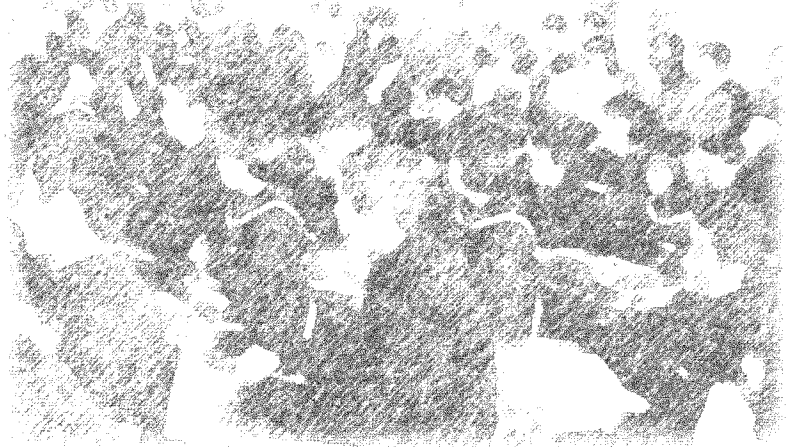
1991年度、様々な公開授業で思いを語り合ってきた板野中学校3年B組生徒のひとりに、M・Tがいる。彼は、小・中学校を通して、柔道に取り組んだ。その後、高校に入り、柔道をレスリングに切り替え、「オリンピックに出場する」という目標を目指し、努力を続けた。

そして、2004年アテネオリンピックのレスリング競技に出場し、2024年のパリオリンピックでは、出場チームの監督を務め、自らの夢を実現した。

彼は、公開授業の後半に拳手をし、私との出会いと部落問題学習から学んだ思いを語った。以下に紹介するのは、その発言とオリンピック出場への夢を綴った生活ノートである。

1991年11月19日(火) 徳島県中学校同和教育研究大会公開授業でのM・Tの語り

中学2年の最初、先生と出会った時、「わしの目を見い」と言って「目を見て話をするもんじゃ」と言われたので、先生の目を見て話を聴いた時、この先生はどこか違うなあと思いました。それでいろんな資料を勉強していく中で、最初の頃は、自分の書いていることでも発表しようと思って、震えながらも手を挙げて発表していたんだけど、繰り返し授業がある中で、発表しないで授業が終わったら気持ちが楽だって、その後の授業も発表しないで黙って下を向いて授業を受けたら、やっぱり気持ちが楽だって、でもこのままでは、アカンなあという思いもあって、何回か手を挙げて発表しようと思ったけど、なかなか手が挙がらないでいました。でも、みんなの発表を聴いたら、差別は絶対許したらアカンと思うし、周りの雰囲気流されて部落の悪口を言う人間に絶対ならないためにも、楽な道を選ばずに、僕自身を鍛えるためにも自分の思いを発表していかないと。この頑張りが大きくなっていったら、周りの雰囲気に流されないような人間になっていくことにつながると。思います。



1992年3月3日(火) オリンピック出場への夢を綴ったM・Tの生活ノート

中学校での3年間を振り返るとき、僕は本当に成長したと思います。中学3年になって、毎日当たり前のように書くようになった生活ノート、今ではノート1頁をアツという間に、自分の思いでいっぱいにすることができるようになりました。そして、この3年B組の仲間にはいっぱい元気や勇気ももらいながら、自分自身の思いを堂々と語っていくことができるようになりました。僕の中学生活、本当に素晴らしい仲間にはいっぱい力をもらい続けた3年間だったと思います。

柔道を通して、僕は「人間を尊敬し信頼する」という人間として最も大切なものを学ぶことができたと思っています。四国のチャンピオンになることもできました。僕は、この柔道でつかんだ夢をもっと大きなものにしていくために、高校でのレスリングに自分のすべてをかけ、最高の努力を続けることを自分の目標にしています。そして、この僕を思いっきり大切にしてくれた仲間に応えていくためにも、絶対、レスリングでオリンピックに行きます。僕には、3度のチャンスがあると思います。

その最初のチャンスが19歳。2回目は23歳です。まず、この2回のチャンスを実現するために僕は全力を尽くします。そして、3度目のチャンスは27歳です。19歳、23歳、27歳と自分の夢を実現していくために努力することは、簡単なことではないと思います。

でも僕は僕の可能性を信じて頑張ります。どんな19歳、23歳、27歳になっているかは想像もつきませんが、僕は柔道を通して学んだ努力することの大切さや、自分自身の表現力を高めてくれた板野中学校の仲間の期待に応えていくためにも頑張ってみせます。

